

# IoT時代のセーフティとセキュリティ

## 「IoT時代のセーフティ設計技術解説」

2015年3月30日

サプライチェーンにおける品質の見える化WG委員  
株式会社ヴィッツ 執行役員 機能安全開発部 部長

株式会社アトリエ 取締役

森川 聡久

IoT時代のシステム開発において必要となるセーフティ設計技術について、機能安全を中心に一部本質安全を含めて、実施すべき開発手順・分析手法・対処法などについて解説します。

## <目次>

- 0. 弊社の機能安全実績のご紹介
- 1. IoT時代にも必要となる(機能)安全への対応
- 2. セーフティの分析・設計技術(H&R)
- 3. セーフティの分析・設計技術(機能安全)
- 4. セーフティの立証技術
- 5. ガイドブックのご紹介

# as Wing Infinity by Trusty Technology om Zero

## 0. 弊社の機能安全実績のご紹介

【国内初】2010年4月:

機能安全規格 **IEC61508 SIL3対応** ソフトウェアプロセス認証を取得

【世界初】2012年3月: ※世界初は当社調べの限り

自動車 機能安全規格 **ISO26262 ASIL-D(最高レベル)対応** ソフト

ウェアプロセス認証を  
4社同時取得(**東芝 2社,**  
**パナソニック, ヴィッツ**)  
その後、**アイシン2社、**  
**自動車関連企業2社**の  
取得支援成功!

**プロセス認証取得企業は、**  
**国内外で増加傾向にあり**



IEC61508:1998



IEC61508:2010, ISO26262:2011

- ・平成22年度～24年度:3年間の活動
- ・**軽くて厳格な保護が可能な「ParOS」**を、パーティションOSの決定版として、仕様策定から実装まで研究開発した。
- ・上流レベルの**「技術安全コンセプト」**を国際認証機関TUV SUDに**アセスメント**していただき、**「complete評価」**をいただいた。 ※アセスメント ≠ コンサル

## Review Report

of the

### Partition OS Safety Concept

#### Applicant

Witz Incorporation  
Shirakawa 2<sup>nd</sup> Bldg, 2F, 7F, 13-1  
Sakae 2-Chome  
Naka-ku  
460-0008 Nagoya  
Japan

#### Manufacturer

Witz Incorporation  
Same as above

Report no. WN84129T

Revision: 2.0, Date 18.01.2013

#### Test and Certification body

TÜV SÜD Rail GmbH  
Generic Safety Systems  
Barthstraße 16  
D-80339 Munich

Page 1 of 16



## 6 Summary

The available documentation of Witz Inc. is complete with respect to the concept of the TOE as defined in chapter 1.

The safety manual has to be completed in the detailed phases of a specific project depending on the project specific regulation of deliverables by Witz Inc. This includes requirements resulting from the fact that Witz Inc. makes it mandatory to order the Board Support package development to Witz Inc. The resulting "final" safety manual shall be reviewed and checked to achieve precise and accurate instructions for the user of ParOS.

The requirements of IEC 61508 2<sup>nd</sup> Edition are met. The results and recommendations can be used to execute the detailed development phase and documentation for PartitionOS.

i.V. Guido Neumann

Technical Certifier

i.A. Sylvia Waldhausen

Expert Functional Safety

※ParOS安全コンセプトレポートからの抜粋

This technical report may be represented only in complete wording. The use for promotion needs written permission. It contains the result of a unique investigation of the product being tested and places no generally valid judgment about characteristics out of the running fabrication. Official translations of this technical report are to be authorized by the test and certification agency.



# 主な機能安全支援実績



工作機械

医療機器

建設機械

航空機

自動車

**<機能安全対応コスト>**  
数億円～数十億円、数年間

**弊社の知見投入**

わからないから莫大なコストがかかる

**期間半減!! 費用半減!!** を目指した支援

他にも  
鉄道、ガス機器、農業機械  
サービスロボット、  
などの対応実績もあるよ♪

支援企業実績: **41 社** 支援プロジェクト実績: **71 プロジェクト** 2014年12月現在

支援項目	A社	B社	C社	D社	E社	F社	G社	H社	I社	J社	K社	L社	M社	N社	O社	P社	Q社	R社	S社	T社	U社	V社	W社	X社	Y社	Z社	a社	b社	c社	d社	e社	f社	g社	h社	i社	j社	k社	l社	m社	n社	o社			
①機能安全プロセス、安全計画の構築	●	●	●			●	●	●	●	●						●	●		●		●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●							●				
②技術安全コンセプトの構築	●		●			●				●		●				●		●	●	●		●			●		●		●	●	●	●						●		●	●		●	
③FMEDA安全分析&故障率算出評価	●	●								●									●			●																						
④機能安全開発受託	●	●				●				●					●	●		●		●							●					●						●						
⑤機能安全第3者検証・監査	●	●				●	●	●	●	●					●	●	●			●	●	●										●	●					●		●				
⑥開発ツールの機能安全対応		●									●		●																			●						●						
トレーサビリティ管理ツール導入		●				●	●			●		●								●								●									●							
機能安全対応RTOS導入																●								●																				
ノウハウコンテンツ導入				●	●	●	●	●	●	●			●										●				●												●					
機能安全教育						●						●					●	●		●		●					●				●			●	●				●			●		
機能安全規格解説(無料コンサル※)	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●		●	●				●		●	●		●	
機能安全認証取得支援	●					●	●	●	●	●										●	●	●	●		●	●												●						
システム、ECU対応	●	●	●							●	●	●	●		●	●		●	●	●	●	●				●		●	●	●	●			●	●	●				●	●	●	●	
ハードウェア対応	●	●								●	●				●	●			●		●				●			●	●			●			●	●					●	●		
ソフトウェア対応	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		●		●	●	●	●
IEC 61508	●	●		●	●	●	●	●	●	●		●											●																					
ISO 26262			●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●		●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ISO 13849		●								●																				●								●						
その他の機能安全規格	●			●		●				●											●	●		●					●									●						

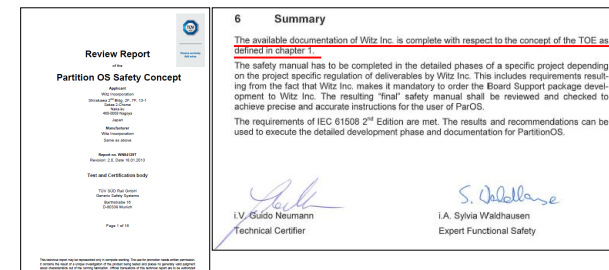
※無料コンサルは、まとまった開発・作業委託をいただいた場合に対応しております。

# 弊社の機能安全実績の特徴

- ①多分野・多企業への**実開発支援**によるノウハウの蓄積

- ②欧州認証機関との豊富な活動経験

– 延べ10プロジェクト以上、70回以上、  
500h以上のミーティング経験



⇒ グローバル基準に対する豊富な実践経験

- ③**Safety（機能安全） & Security（組み込みセキュリティ）**

– 主な組み込みセキュリティ活動

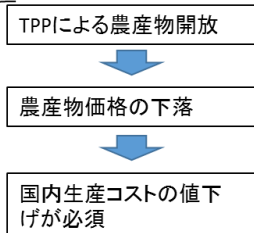
- 重要生活機器連携セキュリティ協議会（CCDS）
- サポイン3件
- JASPAR 情報セキュリティ実証WG



# 農機の標準通信規格・機能安全対応を促進する基盤ソフトの整備

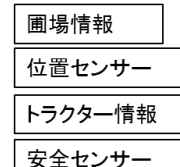
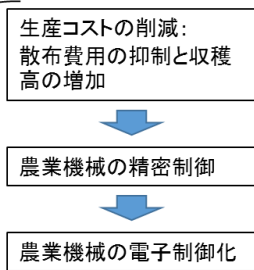
平成26年度採択サポイン「農業機械のさらなる高度化と海外進出に資する次世代電子制御ソフトウェア基盤の開発」

農業の背景と課題



労働コストの削減:  
⇒トラクタ等の自律化

農業機械への要望

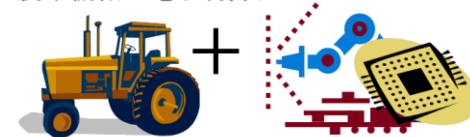


既存農業機械



既存農業機械は労働支援のみ

農業機械の電子制御化



電子制御化された次世代農業機械による精密かつ安全な作業は、生産コスト削減のための有効な方法

**Smart Safety Agriculture**

電子制御化の課題

- 【低コスト化】簡便なソフトウェア開発技術
- 【標準準拠】通信制御・機能安全

本研究範囲

- 自動車技術の活用
- 簡易設計ツールの開発
- ISO-BUSの活用
- ISO 25119対応

農業機械の課題

本研究成果による貢献

**Smart Safety Agriculture**

- 国内生産コストの削減
- 農業機械の安全担保
- 農業機械企業の国際競争力向上実現

農業IT化の促進

欧米農機メーカー

国内農機メーカー

農機用次世代  
ソフト基盤

標準通信規格  
ISO 11783 / ISOBUS

2000年前後から対応

機能安全規格  
ISO 25119

2010年頃から対応開始

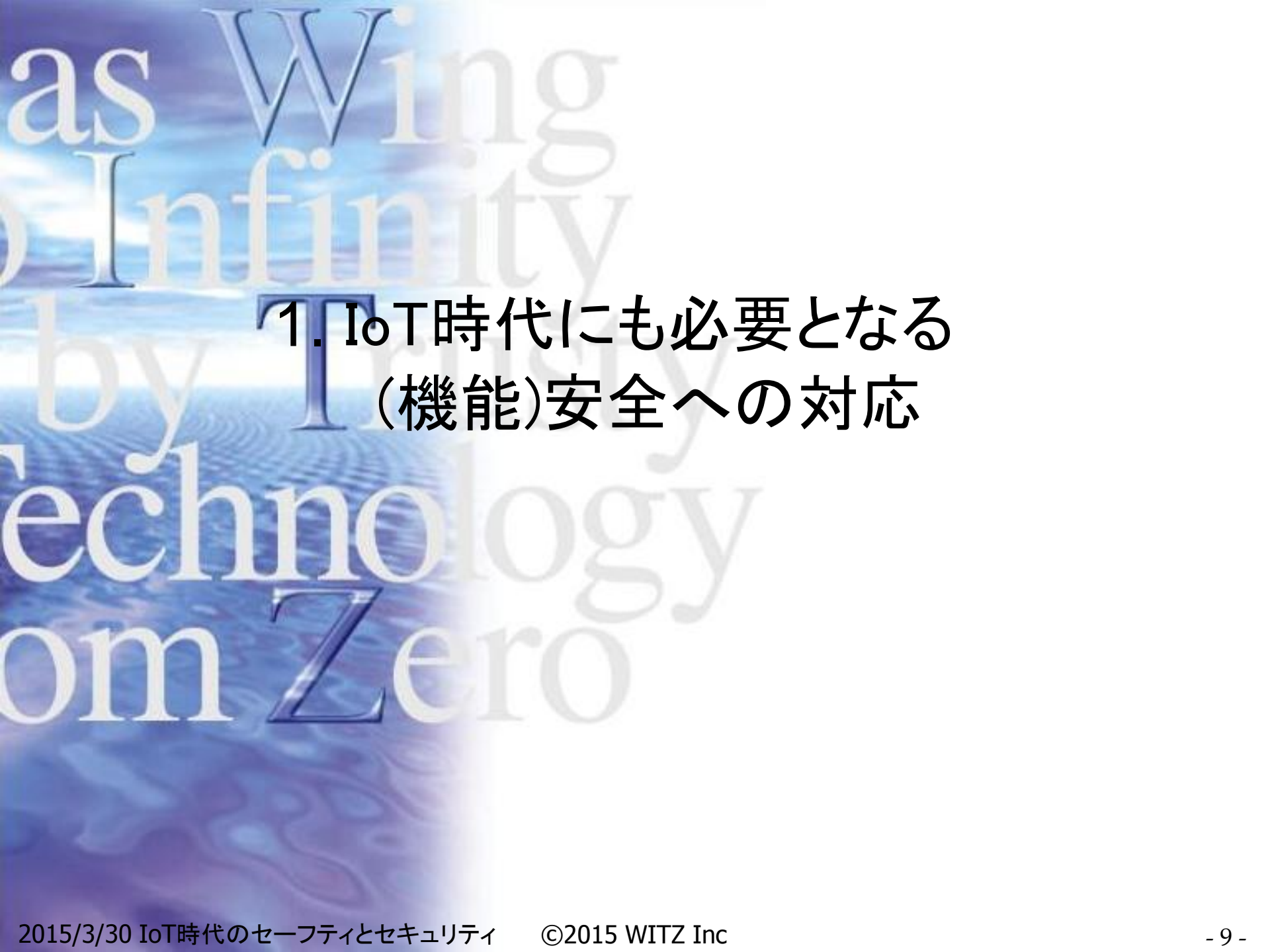
10年behind

ISOBUS・機能安全対応  
ソフト基盤で競争力強化を支援

5年behind

機能安全設計への形式手法適用、  
GSN・SafeMLの利用など予定

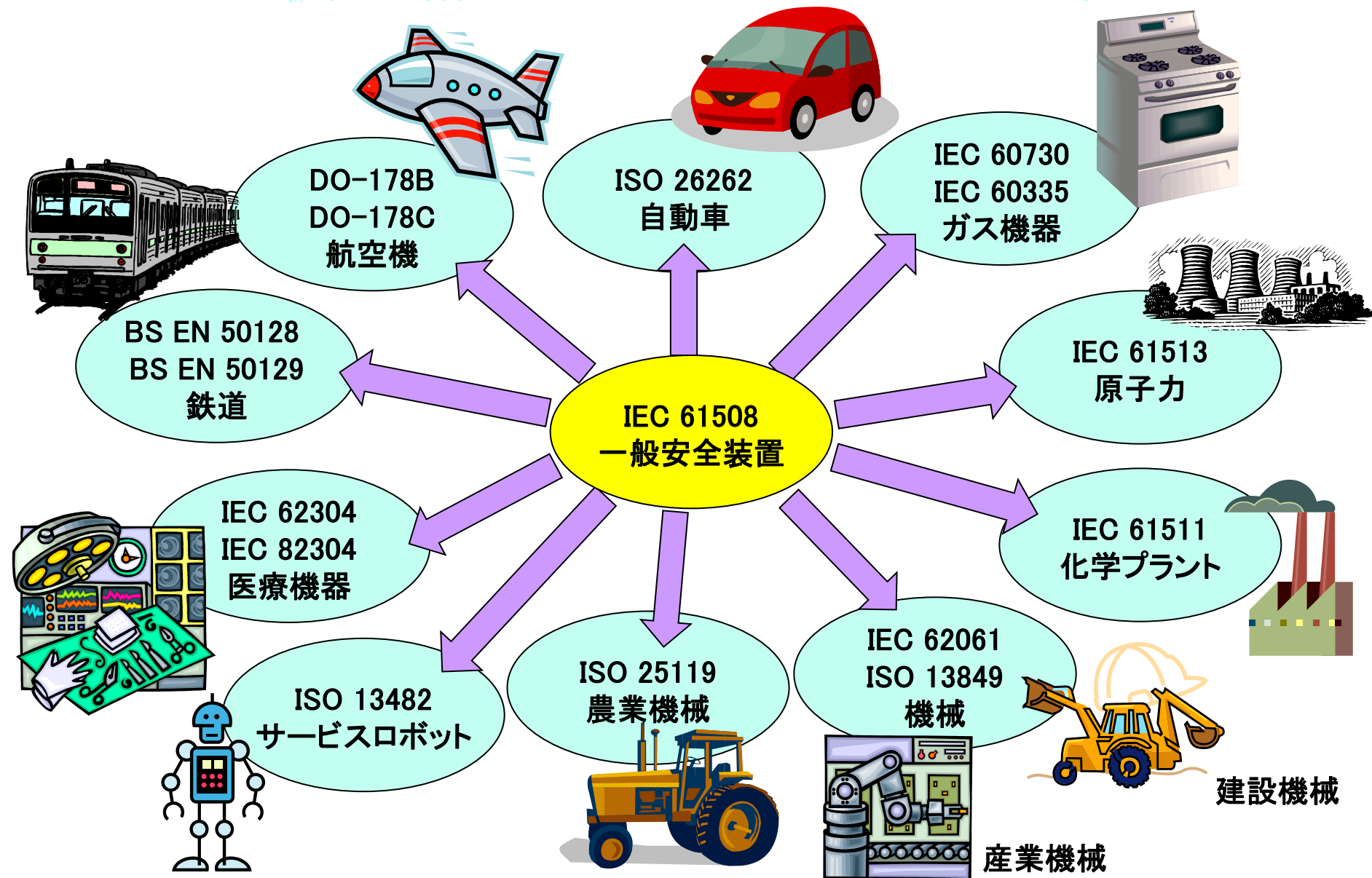




# 1. IoT時代にも必要となる (機能)安全への対応

# さまざまな産業ドメインで対応必須化する機能安全

株式会社 ヴィッツ

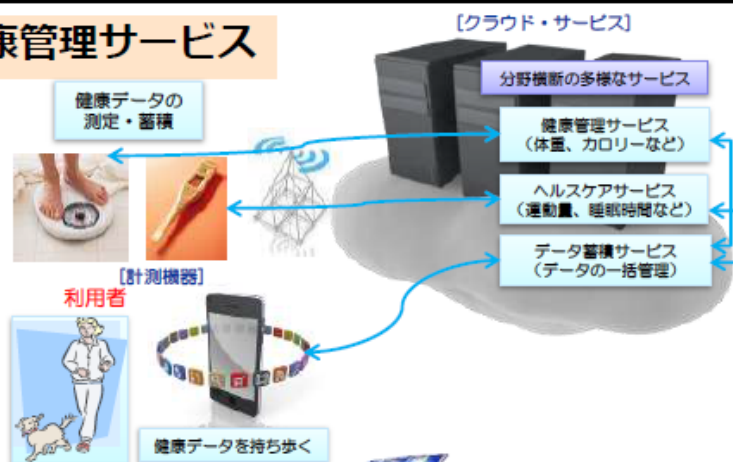


ネットワーク連携によりシステムは益々複雑に ⇒ セーフティ対応必須

## 指摘された課題例：ソフトウェア連携イメージ

SEC  
Software Reliability  
Enhancement Center

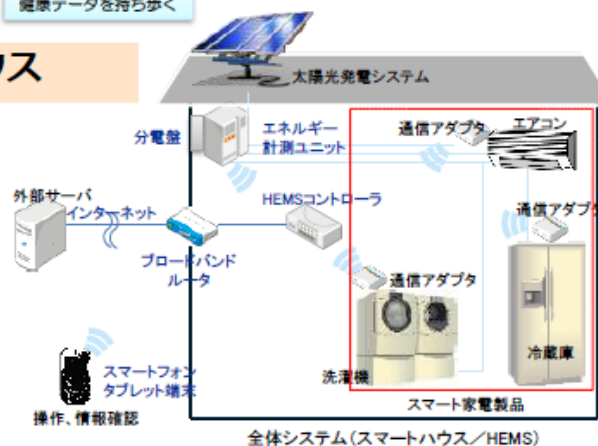
### 例1：健康管理サービス



品質、安全性、セキュリティ  
基準等が異なる製品間の相互  
接続が拡大

接続可否判断と相互につな  
がるソフトウェア間の品質やセ  
キュリティ確保が重要

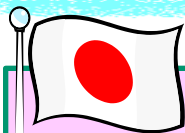
### 例2：スマートハウス



利用者が製品やサービス  
を組み合わせ利用

利用者が連携時のリスクを  
十分に理解できていない。

# 従来開発と機能安全開発の大きな違い



## 従来開発

### ①壊れないモノ作り

- ・自己努力によって壊れにくいもの、バグゼロが目標
- ・匠の技術で作られた高信頼性部品を使用

### ②日本流開発スタイル

- ・担当者間の“すり合わせ開発”で、効率的に開発を進行
- ・開発文書の出来栄は不十分(必要最小限)

安全性強化

開発スタイルへ  
不慣れな



## 機能安全開発

### ①壊れても安全なモノ作り

- ・高品質の証拠を積み重ねた開発によってバグゼロが目標
- ・万が一構成部品が故障しても危険にならない「仕組み」が必要

### ②安全説明力のある開発

- ・PL訴訟時に安全を客観的に説明できる開発文書の作成やエビデンスが必要

組込みシステムの複雑化による事故多発への対応として  
「**実の安全性向上**」と「**PL訴訟対策**」のため、機能安全は生まれた

# 機能安全対応製品の実現ステップ

機能安全  
対応製品

## 機能安全開発・評価

### 機能安全開発

- ・システム開発・V&V
- ・HW開発・V&V
- ・SW開発・V&V
- ・回路図の安全分析
- ・SWアーキの安全分析

### 機能安全評価

- ・SIL/ASIL故障率評価
- ・機能安全監査

## コンセプト開発

### 安全計画

- ・FSMプラン
- ・V&Vプラン
- ・調達(ツール・外注)

### 安全目標の定義

- ・H&R分析
- ・目標SIL/ASIL決定

### 技術安全コンセプト構築

- ・安全コンセプト
- ・安全マニュアル
- ・安全要求仕様書
- ・システム安全分析

## 機能安全管理システムの構築 (IEC 61508, ISO 26262, ISO 13849, etc)

既存開発との  
ギャップ診断

### プロセス構築

- ・規定
- ・ガイドライン
- ・テンプレート
- ・チェックリスト
- ・システム
- ・HW
- ・SW

プロセス改善・定着

## 品質管理システムの構築 (CMMI, A-SPICE)

### プロセス構築

- ・規定
- ・ガイドライン
- ・テンプレート
- ・チェックリスト
- ・システム
- ・HW
- ・SW

プロセス改善・定着

製品個別対応

組織対応



# 不明確な文書化基準

どう書けば「簡潔」と言えるのか？

どう書けば「明白」と言えるのか？

## <内容>

- ・正確
- ・簡潔
- ・理解容易性
- ・明白な構成
- ・保全性
- ・内容が妥当

どう書けば「理解容易」なのか？

規格書の要求事項は非常に曖昧。合格基準がわからない……。そこで、「PL訴訟対策」という、もう1つの目的が重要になってくる。

注) 規格書には「PL訴訟対策のため」とは載っていないので、「機能安全規格要求」と「PL訴訟対策」は別要求なのです。

しかし、「PL訴訟対策のために機能安全に適合するのだから、**PL訴訟で通用するエビデンスでなければならない**」ことが、「暗黙の要求事項」になっている。

- 機能安全が求めること

満たせば

安全性を説明可能

- 完全性・一貫性

- ・ 開発・管理・運用に必要な情報が全て記載/記録されていること
- ・ 過不足・矛盾がない
- ・ あらゆる観点での検証 (Verification) を実施して確認されていること

- 再現性 + 客観性

- ・ 再現/再検証できること  
(他者でも、数年後でも)

⇒ 再現できない内容だと・・・

- ・ 安全であることを、客観的に確認できない
- ・ 後の不具合発生時に、問題原因を追究できない

- 可読性 + 客観性

- ・ 同意の理解ができること  
(他者が見ても、数年後に見ても)

⇒ 誤解するような内容だと・・・

- ・ 関連モジュールに不具合混入の恐れ
- ・ 後のメンテで誤修正の恐れ

**PL訴訟で通用するには、再現性・客観性・可読性 が重要!!**

# 機能安全だけでは安全なモノは作れない!!

機能安全は「安全策の一種」  
にすぎない！

さまざまな対策を打って  
やっと「安全」なものができる。

## ・リスク低減プロセス (3ステップメソッド)

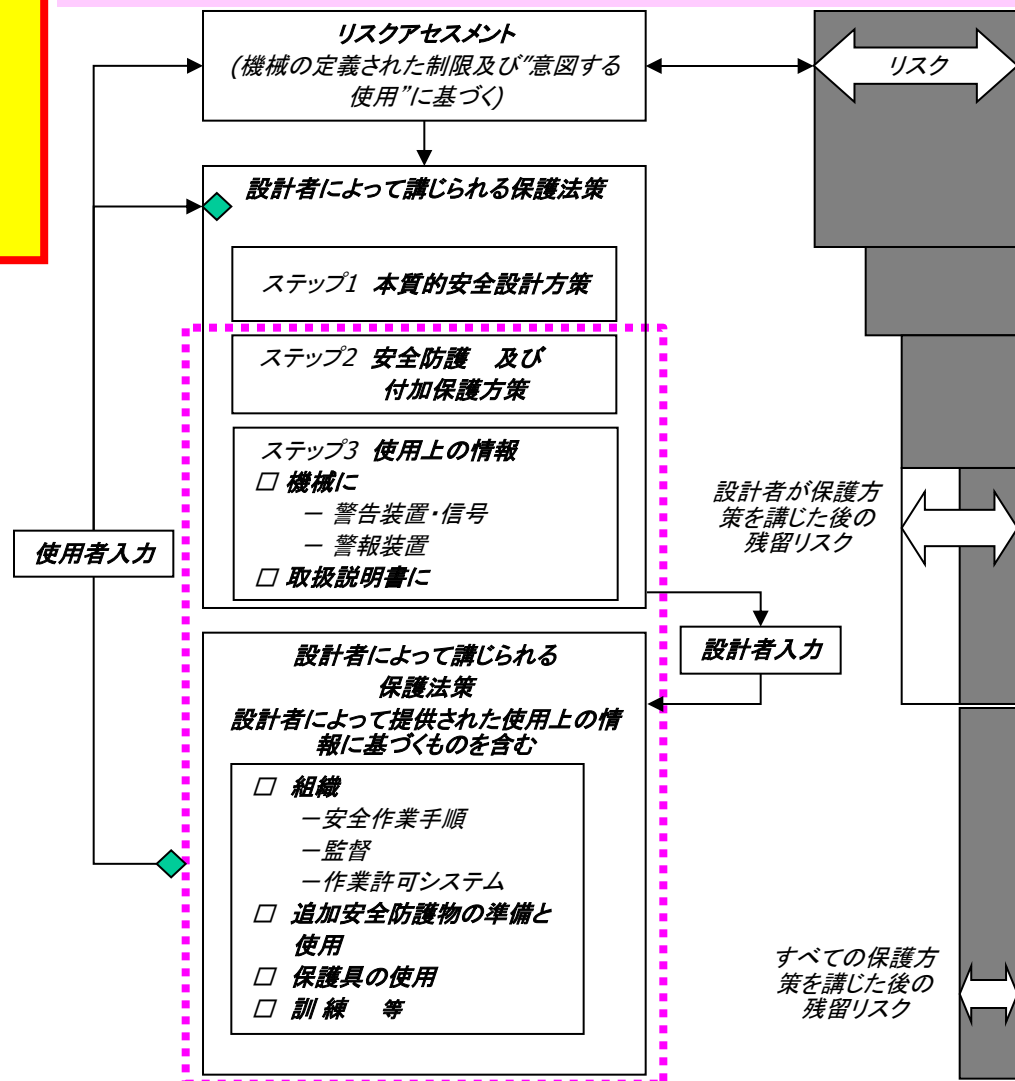
1. 本質的安全設計

2. 安全防護、  
付加保護方策  
(機能安全)

3. 使用上の情報

・開発だけでなく、運用時  
の対応も重要！

まずは「機械安全」ISO12100 (JIS B 9700): 機械類の安全性一設計のための一般原則ーリスクアセスメント及びリスク低減 が重要!!



JIS B 9700-1 図1

## 2. セーフティの分析・設計技術(H&R)

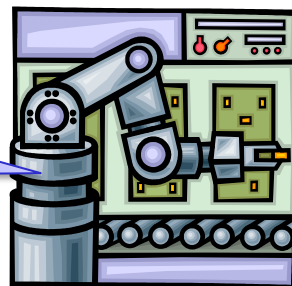
- ハザード&リスク分析(H&R) ≡ ISO12100
  - ハザード(危険事象)を抽出し、
    - 機能安全では「万が一故障した場合の誤動作」も想定
  - リスクを評価し、
    - 機能安全では「SIL/ASIL」などが決定
  - 安全策を検討する。
- 安全分析(機能安全)
  - 前提: 電気系部位の故障対策(安全設計)が検討済
  - 電気系部位について、故障しても危険にならないことを確認する。



# 具体的イメージ例

## <H&R>

- ①ハザード  
制御が暴走したら危険!!
- ②リスク評価  
SIL2



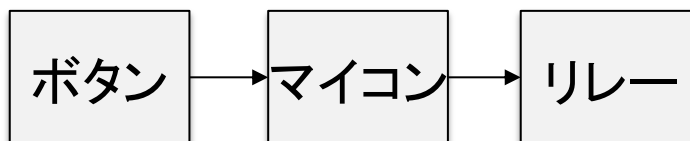
※注) 非常停止ボタンだけで十分安全になるかは不明



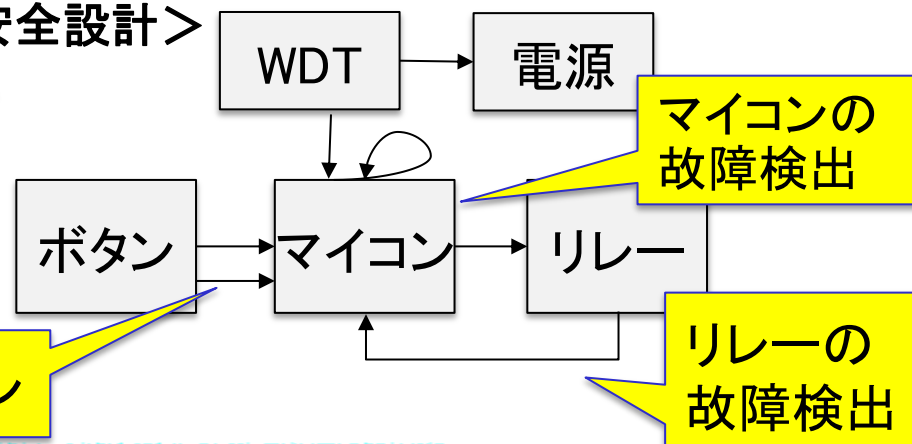
- ③安全策  
「非常停止ボタン」を付けよう!!

- ④安全要求の定義  
「非常停止ボタン押下時に確実に  
停止すること(SIL2)」

## <従来設計(機能実現)>



## <安全設計>



## <安全分析>

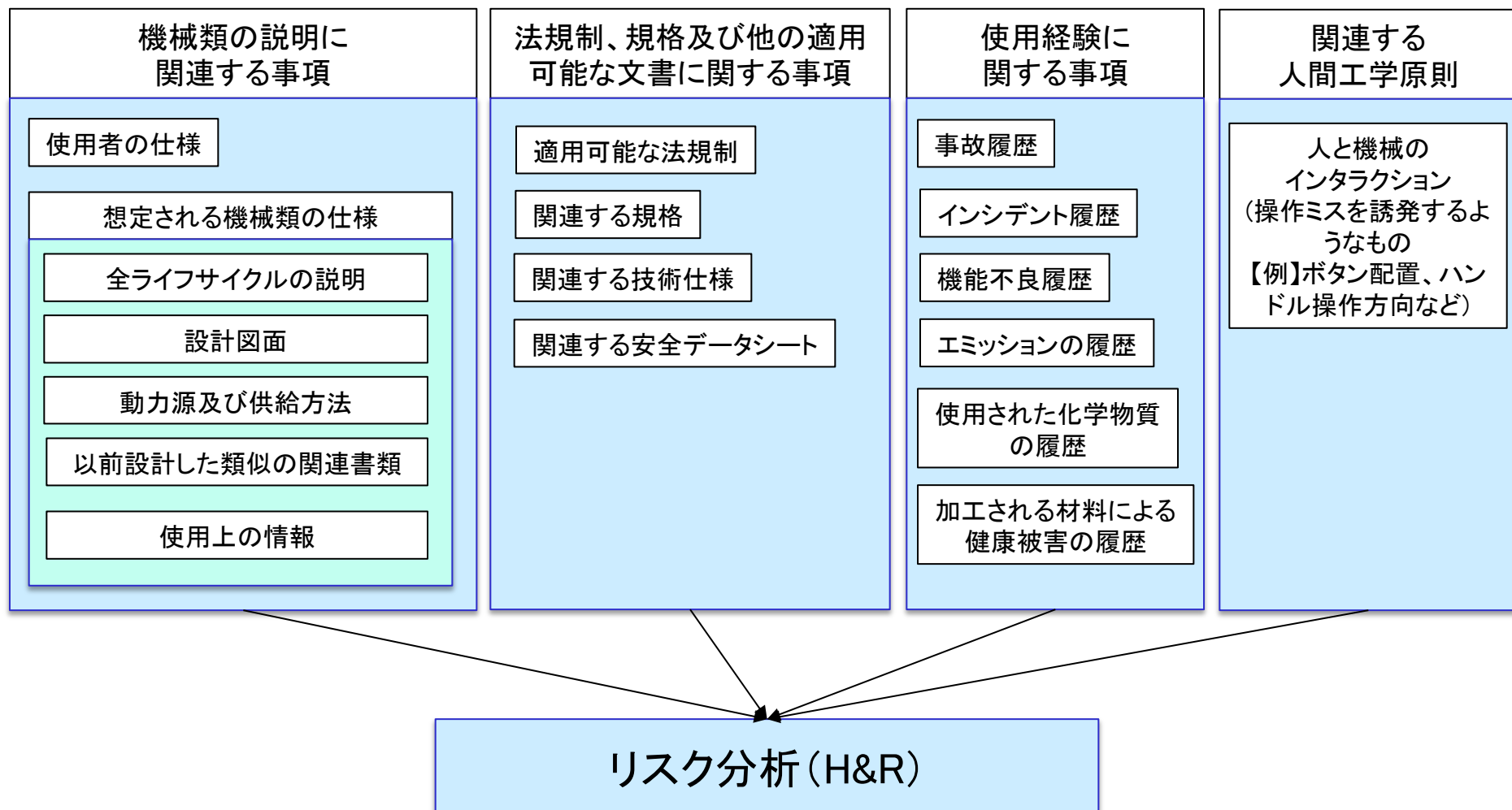
SIL2を満たす安全設計であることを確認する。

2重接点ボタン

マイコンの  
故障検出

リレーの  
故障検出

# H&Rに必要な情報



# 機械類の制限の決定(H&R)

- 『機械が使用される目的・条件』を明確化するため、機械類の制限の決定を行う。
- 機械類の制限の例(JIS9700:2013／5.3項)を以下に示す。

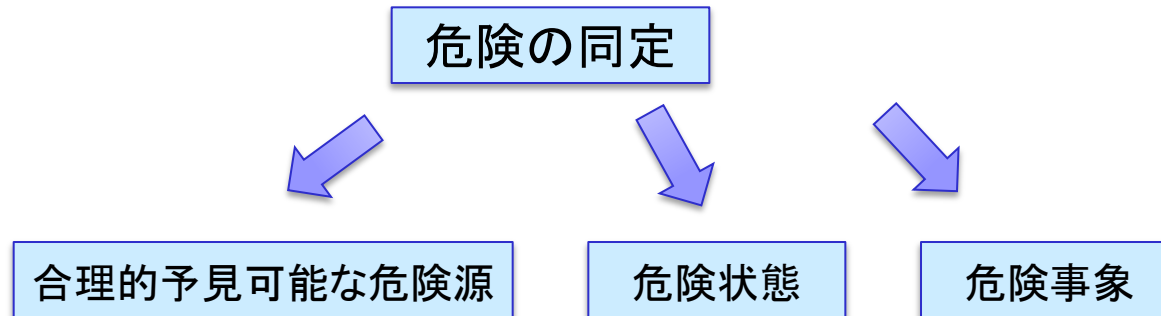
使用上の制限	空間上の制限	時間上の制限	その他の制限
機械の運転モード	機械の可動範囲	機械類及び／又はコンポーネントの寿命	加工材料の特性
機械の介入手順	運転及び保全のように機械に関わる人に対する空間要求事項	推奨点検修理間隔	清掃レベル
利き手の使用方法	機械類と人との係わり方		環境面
性別			
身体能力の限界	機械-動力源間のインタフェース		
年齢			
使用者の訓練レベル			
使用者の経験レベル			
使用者の能力レベル			
危険源の第3者への暴露			



有効期限は何年か？  
どういう目的で使用する？  
使用者は、こういった条件を満たす必要があるか？  
設置のための条件は何か？

機械が使用される目的・条件

- 機械のライフサイクルの全局面(運搬、組立て及び設置、コミッショニング(立ち上げ、検取引渡し、移管)、使用、分解、利用停止、及び廃棄処分)における、**合理的に予見可能な危険源、危険状態及び／又は危険事象**を系統的に同定する。



- 危険源の同定に用いられる『分析手法』**は、以下の通りである。
  - JIS9700:2013に記載されていないが、JIS9702:2000(JIS9700:2013へ統合)に記載されている。(HAZOPは記載されていない。)
  - また、ISO/TR 14121-2:2012にて、リスクアセスメントの各段階における数々の手法の実際的使用について示されている模様。(ISO/TR 14121-2:2012については、未調査)

帰納的手法	両手法の使い分け	演繹的手法
PHA(予備危険源分析)	HAZOP(ハザード&オペラビリティ調査)	MOSAR法(系統的风险分析のための組織化法)
ワット・イフ法		FTA(障害ツリー分析)
FMEA(故障モード及び影響分析)		デルファイテクニック

- 個々の**危険状態に関連するリスク**は、**危害の発生確率**と**危害の酷さ**との組合せで表される。以降のスライドに、見積り基準を示す。

$$\begin{aligned}\text{リスク(R)} &= \text{危害の発生確率(P)} \times \text{危害の酷さ(S)} \\ &= (F + A + P_s) \times S\end{aligned}$$

以下の3点を考慮して、危害の発生確率(P)を求める。

■人の危険源への暴露(危険源にさらすこと)(F)

- 1) 危険区域への接近の必要性
- 2) 接近の性質
- 3) 危険区域内での経過時間
- 3) 接近者の数
- 5) 接近の頻度

■危険事象の発生確率(P<sub>s</sub>)

- 1) 信頼性及び他の統計データ
- 2) 事故履歴
- 3) 健康障害履歴
- 4) リスク比較 ※

■危害の回避又は制限の可能性(A)

- 1) 危険源に暴露される様々な人
- 2) 危険状態から危害に至る早さ
- 3) リスクの認知
- 4) 危害の回避又は制限にかかる人の能力
- 5) 実際の経験及び知識

以下の2点を考慮して、危害の酷さ(S)を求める。

■障害又は健康障害の酷さ

- 1) 軽度
- 2) 重度
- 3) 死亡

■危害の範囲

- 1) 1人
- 2) 複数人



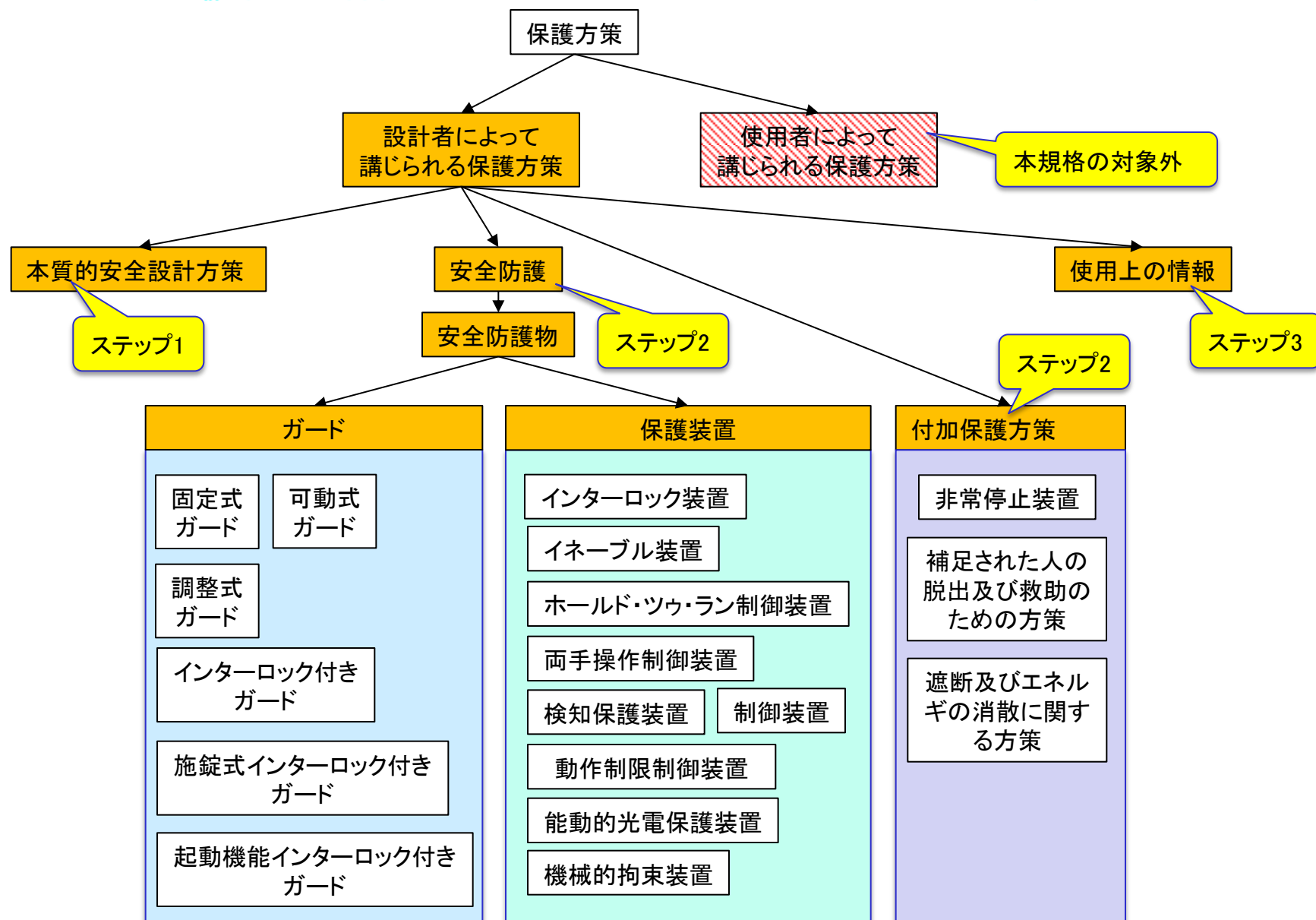
# リスクの大きさの決定

ISO26262 ASILの場合

※参照:ISO26262-5 表4

重篤度クラス	暴露頻度クラス	回避性クラス		
		C1	C2	C2
S1	E1	QM	QM	QM
	E2	QM	QM	QM
	E3	QM	QM	A
	E4	QM	A	B
S2	E1	QM	QM	QM
	E2	QM	QM	A
	E3	QM	A	B
	E4	A	B	C
S3	E1	QM	QM	A
	E2	QM	A	B
	E3	A	B	C
	E4	B	C	D

# 保護方策の種類



### 3. セーフティの分析・設計技術（機能安全）

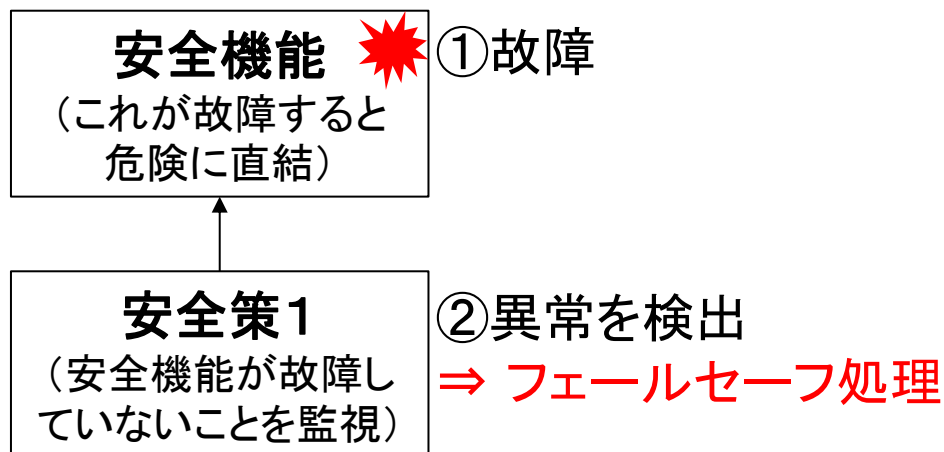
# 安全分析にて考慮すべき故障のパターン



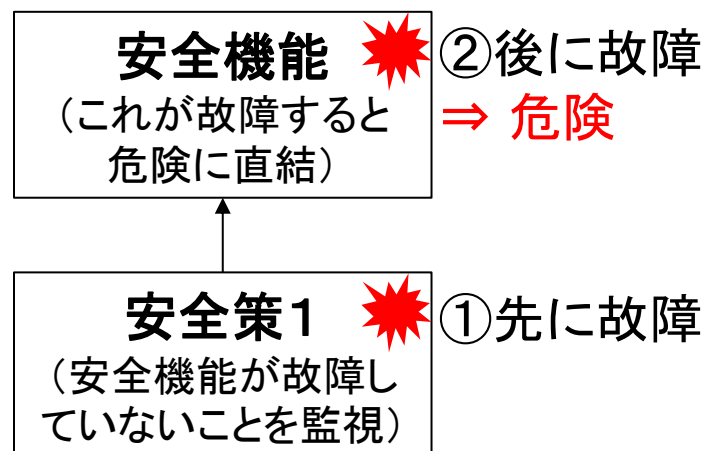
- 系統的原因故障(バグ)と ランダムHW故障
- 単一故障 と 多重故障
  - IEC 61508では、単一故障のみ考慮
  - ISO 26262(自動車)では、2重故障まで考慮必要
  - BS EN 50129(鉄道)では、3重故障まで考慮必要
- 恒久故障 と 一時故障
  - 一時故障の例)ノイズによるメモリ化け
- 従属故障
  - ある故障が原因で、その影響を受け、別の箇所が故障する
- 共通原因故障
  - 1つの原因により、複数箇所への同時故障が生じること
  - 例1)電源異常により、2マイコン共誤動作
  - 例2)ノイズの影響(環境)により、2マイコン共誤動作
  - 例3)安全系のある変数が化け、各出力系全てが誤動作
  - 例4)同一設計のソフトのため、同じ箇所にバグが存在

## • 安全策 (Safety Mechanism; SM) の潜在故障

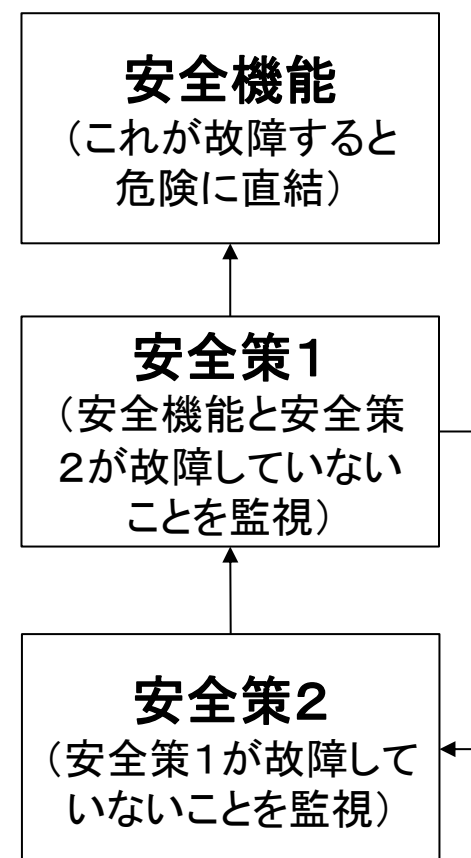
### a) 安全なケース



### b) 危険なケース

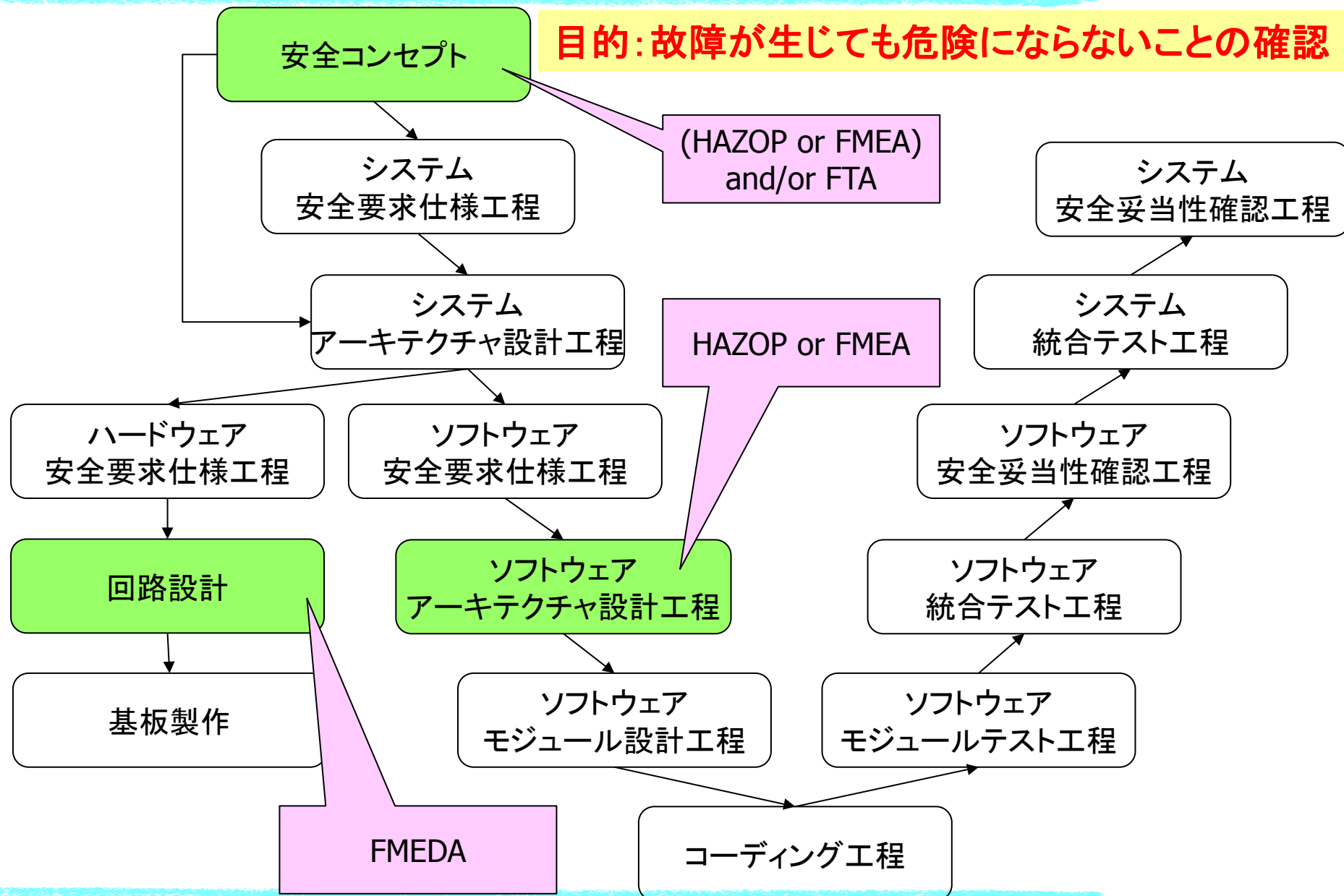


### 対策例





# 安全分析が必要な工程



# ASILと安全策の例 (RAM故障対策)

ISO26262-5 Table D.6 — Volatile memory

Safety mechanism/measure	See overview of techniques	Typical diagnostic coverage considered achievable <b>DC</b>	Notes
RAM pattern test	D.2.5.1	Medium <b>90%</b>	High coverage for stuck-at failures. No coverage for linked failures. Can be appropriate to run under interrupt protection
RAM March test	D.2.5.3	High <b>99%</b>	Depends on the write read order for linked cell coverage. Test generally not appropriate for run time
Parity bit	D.2.5.2	Low <b>60%</b>	—
Memory monitoring using error-detection-correction codes (EDC)	D.2.4.1	High <b>99%</b>	The effectiveness depends on the number of redundant bits. Can be used to correct errors
Block replication	D.2.4.4	High <b>99%</b>	Common failure modes can reduce diagnostic coverage
Running checksum/CRC	D.2.5.4	High <b>99%</b>	The effectiveness of the signature depends on the polynomial in relation to the block length of the information to be protected. Care needs to be taken so that values used to determine checksum are not changed during checksum calculation  Probability is 1/maximum value of checksum if random pattern is returned

- ①厳密な機能安全プロセスでソフトウェアの開発を行う。
- ②システムレベルで導き出されたソフトウェアの技術的な安全策について、詳細レベルで十分であることを確認する。不足している場合、新たな安全策を追加する。

## ソフトウェアにおける主な安全策

故障モード	主な安全策	ISO26262-5
ROM故障	・チェックサムやCRCによるROM故障検出	Table D.5
RAM故障	・チェックサムやパターンテストによるRAM故障検出 ・安全関連データの2重管理	Table D.6
CPUコア故障	・レジスタのテスト ・スタックオーバー／アンダーフロー検出	Table D.4
クロック故障	・タイムウインド付きWDT	Table D.10
内部バス故障検出	・ウォーキングビットによるバス故障検出	Table D.14
ソフトウェアの誤動作	・実行シーケンスモニタ+WDT	Table D.10

ISO26262-6 Table 4 — Mechanisms for error detection at the software architectural level

Methods		ASIL			
		A	B	C	D
1a	Range checks of input and output data	++	++	++	++
1b	Plausibility check <sup>a</sup>	+	+	+	++
1c	Detection of data errors <sup>b</sup>	+	+	+	+
1d	External monitoring facility <sup>c</sup>	0	+	+	++
1e	Control flow monitoring	0	+	++	++
1f	Diverse software design	0	0	+	++

＜従来開発＞

テストがしっかり出ていてバグが無い。



＜機能安全＞

テストの完全性は不可能。

バグが潜んでいることを前提に対処。

## 4. セーフティの立証技術

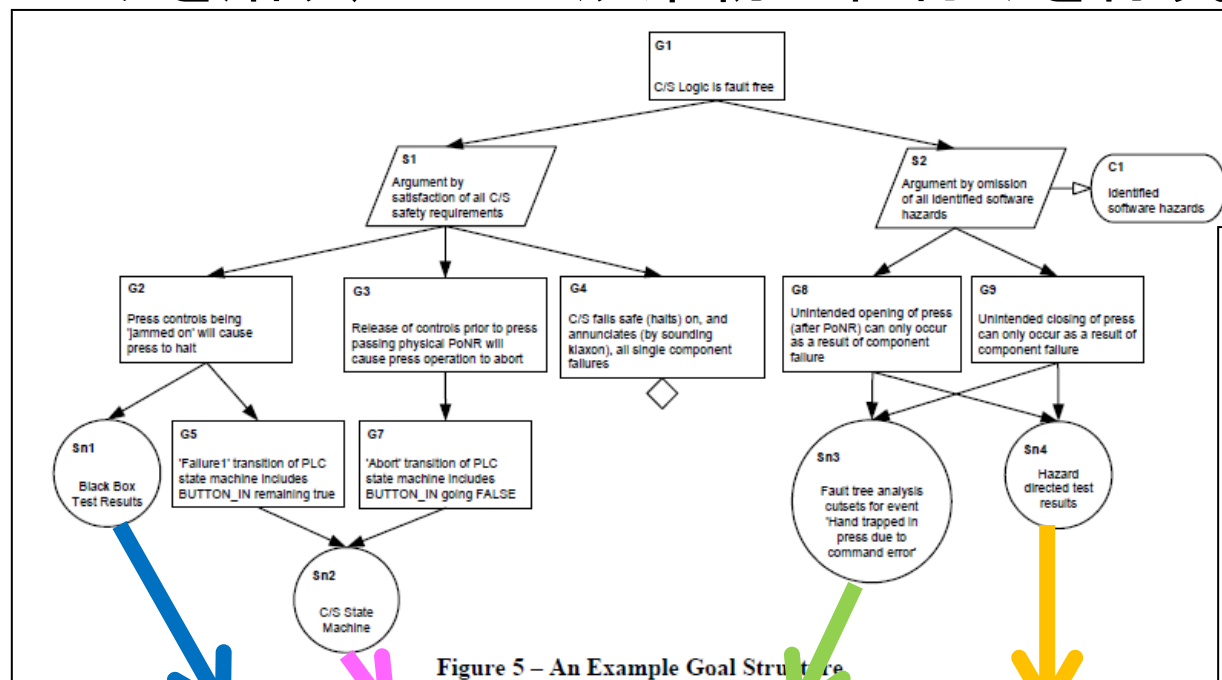
- 
- The diagram illustrates the structure of a Safety Argument. It consists of three main components arranged vertically, connected by arrows:
- Safety Requirements & Objectives** (Top): The highest level of the argument, represented by a box.
  - Safety Argument** (Middle): The central part of the argument, represented by a large box containing the text "Safety Argument".
  - Safety Evidence** (Bottom): The foundational evidence supporting the argument, represented by a box.
- Arrows indicate the flow of the argument:
- Eight wavy arrows point upwards from the **Safety Evidence** box to the **Safety Argument** box.
  - Eight straight arrows point upwards from the **Safety Argument** box to the **Safety Requirements & Objectives** box.

2015/3/30 IoT時代のセーフティとセキュリティ ©2015 WITZ Inc

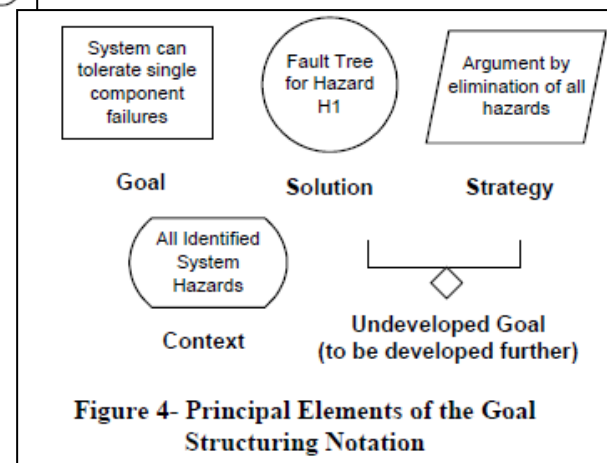


# GSNでSafety Caseの目次を表現

- GSN = Goal Structuring Notation
  - 安全などの「主張」と、それを支持する「議論」の構造を表す図。
- Safety CaseのTOP(目次)をGSNで表す。
- GSNの末端のSolutionから、具体的な開発成果物へのリンクを貼り、全ての成果物の紐付けを行う。



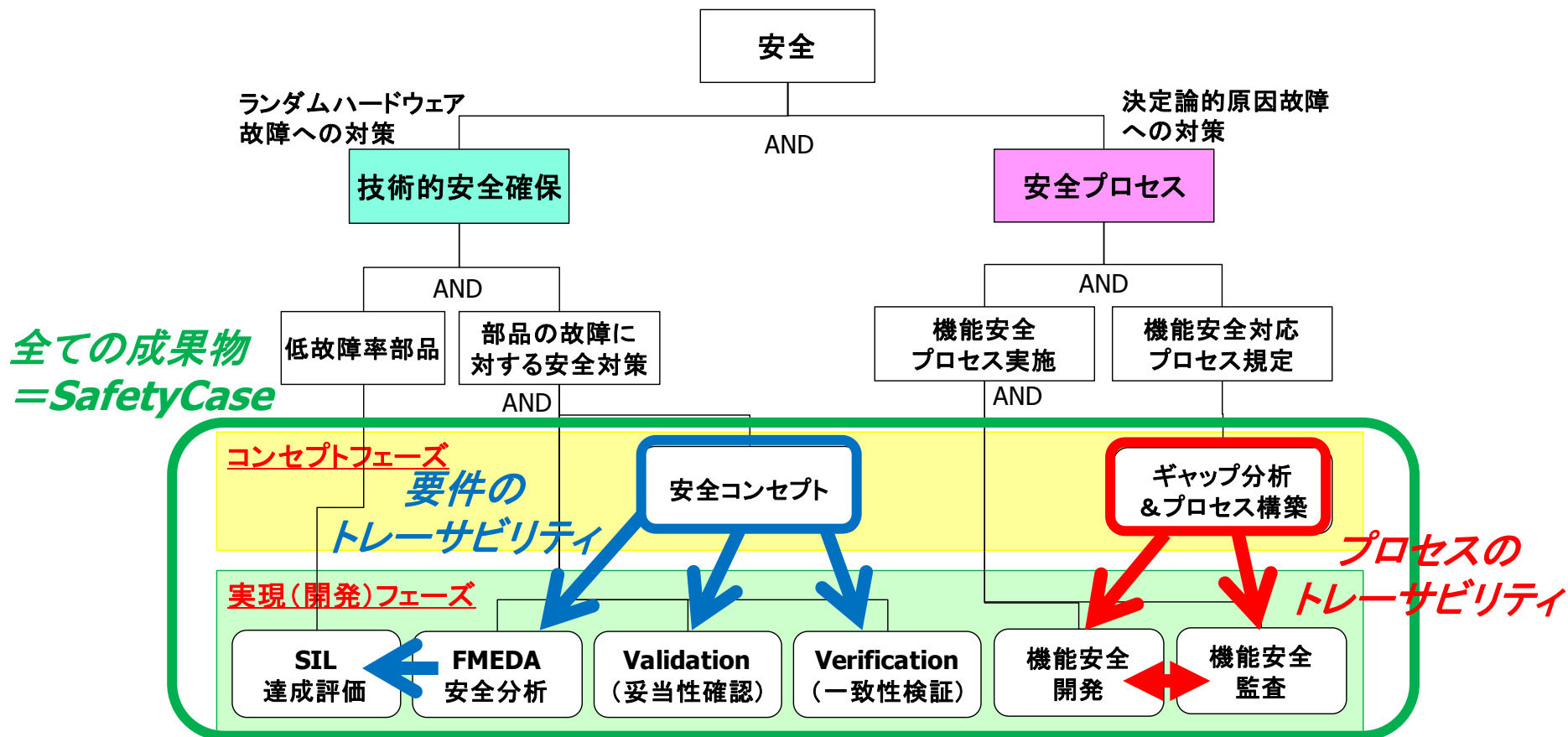
※抜粋元:  
<http://www-users.cs.york.ac.uk/tpk/dsn2004.pdf>

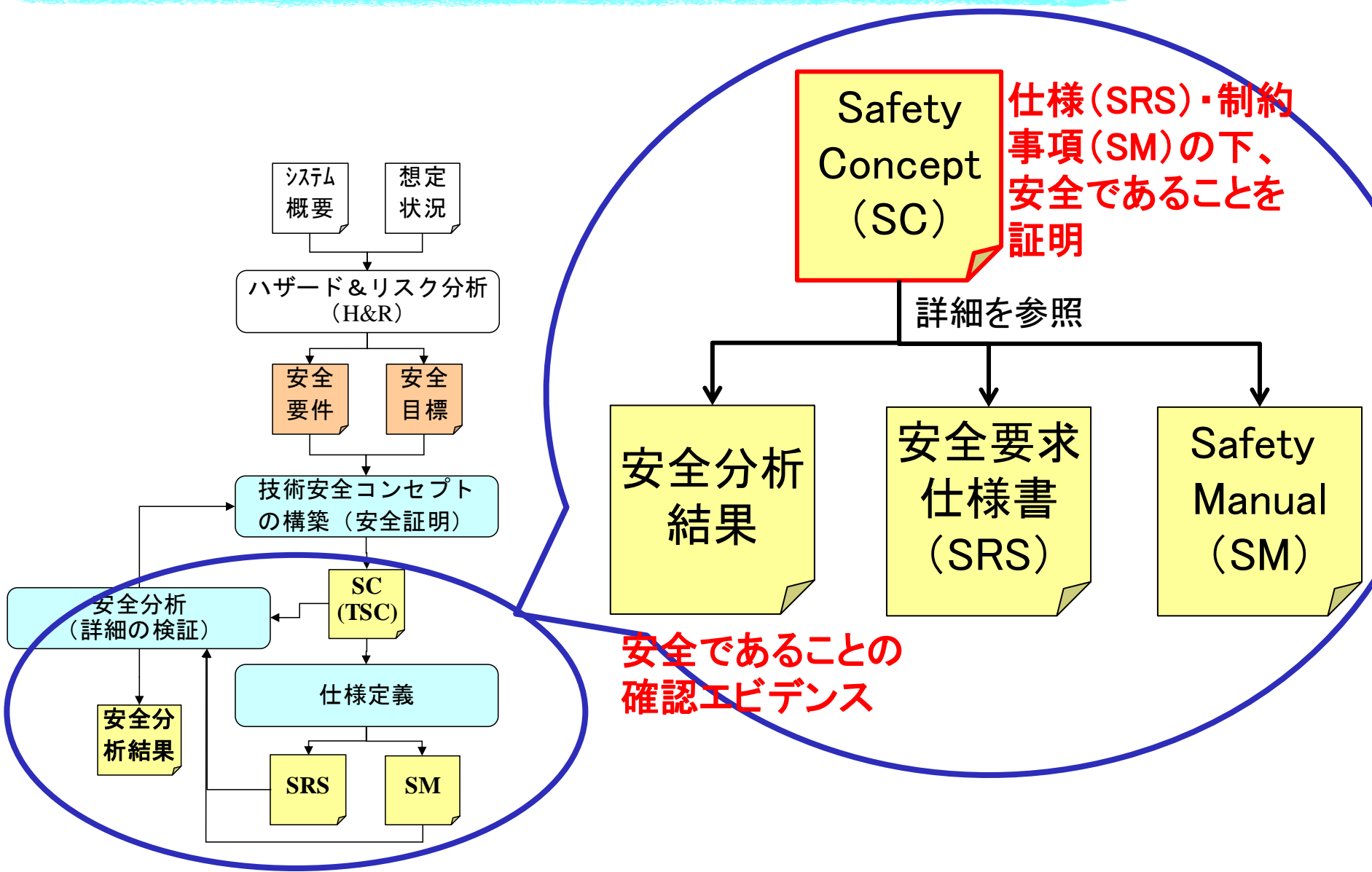


※注) 実際は、あらゆる成果物が紐付くレベルの、詳細なGSNになる。

# 成果物一式でSafety Caseを主張

- その場合、
  - 技術的なTOP文書: 技術安全コンセプト
  - プロセスのTOP文書: 機能安全対応プロセス規定 / 認証取得済プロセス規定
- 各TOP文書からのトレースがとれていることが重要！！

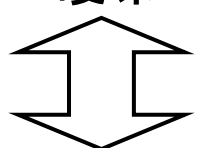




## 機能安全では、準形式手法を推奨

ISO26262-6 Table 2 — Notations for software architectural design

客観的に  
曖昧



明確

Methods		ASIL			
		A	B	C	D
1a	Informal notations 独自の図	++	++	+	+
1b	Semi-formal notations フォーマットが決められた図 (UMLなど)	+	++	++	++
1c	Formal notations 形式記述	+	+	+	+

詳細

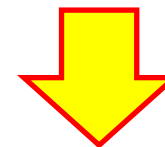
IEC61508-3:2010

Table B.7 – Semi-formal methods

(Referenced by Tables A.1, A.2 and A.4)

Technique/Measure *		Ref	SIL 1	SIL 2	SIL 3	SIL 4
1	Logic/function block diagrams ブロック間I/F	See Note 1	R	R	HR	HR
2	Sequence diagrams シーケンス	see Note 1	R	R	HR	HR
3	Data flow diagrams データ	C.2.2	R	R	R	R
4a	Finite state machines/state transition diagrams 状態	B.2.3.2	R	R	HR	HR
4b	Time Petri nets 時間+状態	B.2.3.3	R	R	HR	HR
5	Entity-relationship-attribute data models 関連	B.2.4.4	R	R	R	R
6	Message sequence charts 通信	C.2.14	R	R	R	R
7	Decision/truth tables 条件	C.6.1	R	R	HR	HR
8	UML	C.3.12	R	R	R	R

従来:  
様々な観点で設計



機能安全:  
様々な観点を  
わかりやすく図示

# 「可読性」の向上 ～文書品質の改善～

## システム開発文書品質研究会(ASDoQ)

文書品質が低いと**多大な問題**が生じます!!



種別	任意団体
会員	団体、個人
会費	原則無料
条件	ASDoQ 著作物の取り扱いへの合意 著作権は、著作者に属する 著作者は、著作物の使用・複製・ 改変・再配布を認める
シンポジウム	1回／年の頻度で開催
研究会	3-4回／年の頻度で開催
作業部会	必要に応じて設立し随時開催

【入会申込・お問合せ先】

システム開発文書品質研究会 <http://asdoq.jp/>  
secretariat@asdoq.jp (ASDoQ事務局)

(事務局所在地)

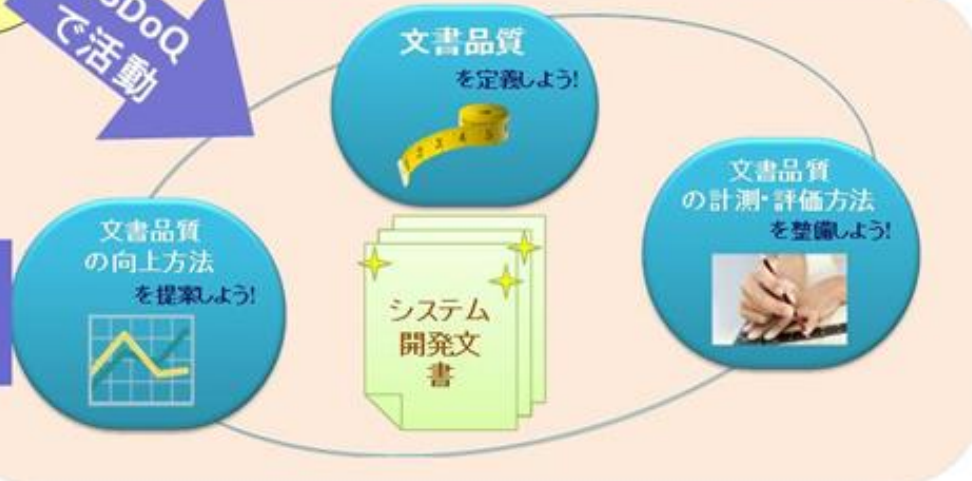
名古屋大学 情報科学研究科附属組込みシステム研究センター内

### 主な成果物

- 開発文書の品質の定義
- 開発文書品質の計測方法
- 開発文書品質の向上方法
- 品質の高い開発文書例

研究  
成果  
(予定)

ASDoQ  
で活動





- **要求番号の付与粒度は文章単位(認証機関指摘事項)**
- **上流文書との紐付を手作業で実施する必要あり(膨大な作業量)**
  - **どんな優れたツールを用いても回避不可能！**

## 【NG事例】章番号単位で番号付与



## 【OK事例】文章単位で番号付与

### 6.2.4.2. 処理単位の実行順序[OS-SW-02-REQ-00058: OS-SW-02-REQ-00001]

処理単位の実行順序を規定するために、ここでは、処理単位の優先順位を規定する。また、ディスパッチが起こるタイミングを規定するために、ディスパッチを行うカーネル内の処理であるディスパッチャの優先順位についても規定する。

タスクの優先順位は、ディスパッチャの優先順位よりも低い。タスク間では、高い優先度を持つ方の優先順位が高く、同じ優先度を持つタスク間では、先に実行できる状態となった方の優先順位が高い。詳しくは、「6.2.6.2タスクスケジューリング規則」の節を参照すること。

割り込みハンドラの優先順位は、ディスパッチャの優先順位よりも高い。割り込みハンドラ間では、高い割り込み優先度を持つ方が優先順位が高く、同じ割り込み優先度を持つ割り込みハンドラ間では、先に実行開始された方が優先順位が高い。同じ割り込み優先度を持つ割り込みハンドラ間での実行開始順序は、この仕様では規定しない。詳しくは、「6.2.7.2割り込み優先度」の節を参照すること。

割り込みサービスルーチンとタイムイベントハンドラの優先順位は、それを呼び出す割り込みハンドラと同じである。

CPU例外ハンドラの優先順位は、CPU例外がタスクで発生した場合には、ディスパッチャの優先順位と同じであるが、ディスパッチャよりも先に実行される。CPU例外がその他の処理単位で発生した場合には、CPU例外ハンドラの優先順位は、その処理単位の優先順位と同じであるが、その処理単位よりも先に実行される。

初期化ルーチンは、カーネルの動作開始前に、システムコンフィギュレーションファイル中に初期化ルーチンを登録する静的APIを記述したのと同じ順序で実行される。終了処理ルーチンは、カーネルの動作終了後に、終了処理ルーチンを登録する静的APIを記述したのと逆の順序で実行される。

### 6.2.4.2. 処理単位の実行順序

処理単位の実行順序を規定するために、ここでは、処理単位の優先順位を規定する。また、ディスパッチが起こるタイミングを規定するために、ディスパッチを行うカーネル内の処理であるディスパッチャの優先順位についても規定する。

タスクの優先順位は、ディスパッチャの優先順位よりも低い[OS-SW-02-REQ-00058: OS-SW-02-REQ-00001]。タスク間では、高い優先度を持つ方の優先順位が高く、同じ優先度を持つタスク間では、先に実行できる状態となった方の優先順位が高い[OS-SW-02-REQ-00059: OS-SW-02-REQ-00001]。詳しくは、「6.2.6.2タスクスケジューリング規則」の節を参照すること。

割り込みハンドラの優先順位は、ディスパッチャの優先順位よりも高い[OS-SW-02-REQ-00060: OS-SW-02-REQ-00001]。割り込みハンドラ間では、高い割り込み優先度を持つ方が優先順位が高く、同じ割り込み優先度を持つ割り込みハンドラ間では、先に実行開始された方が優先順位が高い[OS-SW-02-REQ-00061: OS-SW-02-REQ-00001]。同じ割り込み優先度を持つ割り込みハンドラ間での実行開始順序は、この仕様では規定しない。詳しくは、「6.2.7.2割り込み優先度」の節を参照すること。

割り込みサービスルーチンとタイムイベントハンドラの優先順位は、それを呼び出す割り込みハンドラと同じである。

CPU例外ハンドラの優先順位は、CPU例外がタスクで発生した場合には、ディスパッチャの優先順位と同じであるが、ディスパッチャよりも先に実行される[OS-SW-02-REQ-00062: OS-SW-02-REQ-00001]。CPU例外がその他の処理単位で発生した場合には、CPU例外ハンドラの優先順位は、その処理単位の優先順位と同じであるが、その処理単位よりも先に実行される[OS-SW-02-REQ-00063: OS-SW-02-REQ-00001]。

初期化ルーチンは、カーネルの動作開始前に、システムコンフィギュレーションファイル中に初期化ルーチンを登録する静的APIを記述したのと同じ順序で実行される[OS-SW-02-REQ-00064: OS-SW-02-REQ-00001]。終了処理ルーチンは、カーネルの動作終了後に、終了処理ルーチンを登録する静的APIを記述したのと逆の順序で実行される[OS-SW-02-REQ-00065: OS-SW-02-REQ-00001]。

※当社製機能安全RTOSの安全要求仕様書からの抜粋  
※赤字は要求番号



## ・ ピアレビュー

- 作成した開発文書の中身に誤りが無いかを、同僚やチームメンバーがチェックすること。非公式レビューの一種。
- 第3者観点が欠落するため、開発時の思い込みミスや、非可読性に関する検出が弱い。

## ・ ウォークスルー

- 開発文書の中身に誤りが無いかを、複数人で集まりチェックすること。公式レビューの一種。
- レビュア:開発の専門家、ターゲットシステムの専門家、品質の専門家、安全の専門家。

## ・ インスペクション

- ・ 開発文書の中身に誤りが無いかを、複数人でチェックすること。公式レビューの一種。
- ・ レビュア:開発の専門家、ターゲットシステムの専門家、品質の専門家、安全の専門家。**文書作成者は参加できない。**
- ・ **各レビューは事前レビューを実施する必要あり。**
- ・ 事前レビューと、合同レビューの2段階実施する。

**機能安全で要求される  
高い説明力が必要!!**

# レビューの完全性

- ・各開発工程(アーキテクチャ設計工程、モジュール設計工程、実装、単体テスト、統合テスト、...)にてゲートが必要。
- ・ゲートでは、厳密なレビューとエビデンス(記録)が必要。

**レビュー内容が本当に正しいことを説明できる文書化が必要。**  
**(従来の指摘事項の記録だけではNG)**

	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	AB	AC	AD	AE	AF	AG	AH	AI	AJ	AK	AL	AM	AN	AO	AP	AQ	AR	AS	AT	AU	AV	AW	AX	AY	AZ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	※認定基準と上記認定基準の4年1月1日より前において、 上記認定基準を適用する。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。		認定基準と上記認定基準の適用範囲が異なること を認める。	

# トレーサビリティツール活用による効率化

	上位の要求番号	上位の要求内容	下位の要求番号	下位の要求内容	レビュー名	レビュー評価	レビュー内容
1	OS-SW-01-REQ-0	指定されたブロックに対して以下の処理を実施する。	OS-SW-02-VAS-0	テスト手順「ROM2 No.5, 11」を満たす内容であること。タイマ等を用いて、即割込みを発生させる。割込みが発生するまでの時間以上をループ等で待つ。割込みは発生しない。	中野 泰伸	OK	問題なし
2	OS-SW-01-REQ-0	コールバック関数呼び出し時の割込み禁止/許可状態は、全割込み禁止状態とする。	OS-SW-02-VAS-0	テスト手順「ROM2 No.5, 11」を満たす内容であること。タイマ等を用いて、即割込みを発生させる。割込みが発生するまでの時間以上をループ等で待つ。割込みは発生しない。	中野 泰伸	NG	
3	OS-SW-03-DSN-0	romck_chk_ablkの決定表	OS-SW-02-VAS-0	テスト手順「ROM2 No.5, 11」を満たす内容であること。タイマ等を用いて、即割込みを発生させる。割込みが発生するまでの時間以上をループ等で待つ。割込みは発生しない。	中野 泰伸	OK	問題なし
4	OS-SW-03-DSN-0	romck_chk_ablkの決定表				未検討	
5	OS-SW-03-DSN-0	romck_chk_ablkの決定表					

①同時に複数文書間の内容を確認

Microsoft Excel - ReviewReport(ROM2-第一回).csv

	上位の要求番号	上位の要求内容	下位の要求番号	下位の要求内容	レビュー名	レビュー評価	レビュー内容
1	OS-SW-01-REQ-02043	IEC 61508の第28条OS-SW-01-RCS-SW-01-REQ-IEC 61508の第28条の表	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題なし
2	OS-SW-01-REQ-02043	IEC 61508の第28条OS-SW-01-RCS-SW-01-REQ-IEC 61508の第28条の表	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題なし
3	OS-SW-01-REQ-02043	IEC 61508の第28条OS-SW-01-RCS-SW-01-REQ-IEC 61508の第28条の表	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題なし
4	OS-SW-01-REQ-02043	IEC 61508の第28条OS-SW-01-RCS-SW-01-REQ-IEC 61508の第28条の表	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題なし
5	OS-SW-01-REQ-02043	IEC 61508の第28条OS-SW-01-RCS-SW-01-REQ-IEC 61508の第28条の表	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題なし
6	OS-SW-01-REQ-02043	IEC 61508の第28条OS-SW-01-RCS-SW-01-REQ-IEC 61508の第28条の表	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題なし
7	OS-SW-01-REQ-02043	IEC 61508の第28条OS-SW-01-RCS-SW-01-REQ-IEC 61508の第28条の表	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題なし
8	OS-SW-01-REQ-02050	電源投入時及びリセットOS-SW-01-RCS-SW-01-REQ-電源投入時及びリセット	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題なし
9	OS-SW-01-REQ-02046	ROM2の故障検出OS-SW-01-RCS-SW-01-REQ-ROM2の故障検出	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題なし
10	OS-SW-01-REQ-02047	ROM2の故障検出OS-SW-01-RCS-SW-01-REQ-ROM2の故障検出	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題なし
11	OS-SW-01-REQ-02049	CRC生成多項式OS-SW-01-RCS-SW-01-REQ-CRC生成多項式	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題なし
12	OS-SW-01-REQ-02052	電源投入時及びリセットOS-SW-01-RCS-SW-01-REQ-電源投入時及びリセット	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題なし
13	OS-SW-01-REQ-02055	ブロック割込、以下OS-SW-01-RCS-SW-01-REQ-ブロック割込、以下の処理	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題なし
14	OS-SW-01-REQ-02055	ブロック割込、以下OS-SW-01-RCS-SW-01-REQ-ブロック割込、以下の処理	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題なし
15	OS-SW-01-REQ-02059	指定されたブロックOS-SW-08-T OS-SW-02-VAS-テスト手順ROM2 No.5	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題あり
16	OS-SW-01-REQ-02059	指定されたブロックOS-SW-08-T OS-SW-02-VAS-テスト手順ROM2 No.5	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題あり
17	OS-SW-01-REQ-02234	コールバック関数OS-SW-08-T OS-SW-02-VAS-テスト手順ROM2 No.5	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題あり
18	OS-SW-01-REQ-02234	コールバック関数OS-SW-08-T OS-SW-02-VAS-テスト手順ROM2 No.5	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題あり
19	OS-SW-03-DSN-00583	romck_chk_ablk OS-SW-08-T OS-SW-02-VAS-テスト手順ROM2 No.5	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題あり
20	OS-SW-03-DSN-00583	romck_chk_ablk OS-SW-08-T OS-SW-02-VAS-テスト手順ROM2 No.5	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題あり
21	OS-SW-03-DSN-00583	romck_chk_ablk OS-SW-08-T OS-SW-02-VAS-テスト手順ROM2 No.5	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題あり
22	OS-SW-03-DSN-00583	romck_chk_ablk OS-SW-08-T OS-SW-02-VAS-テスト手順ROM2 No.5	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題あり
23	OS-SW-03-DSN-00583	romck_chk_ablk OS-SW-08-T OS-SW-02-VAS-テスト手順ROM2 No.5	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題あり
24	OS-SW-03-DSN-00583	romck_chk_ablk OS-SW-08-T OS-SW-02-VAS-テスト手順ROM2 No.5	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題あり
25	OS-SW-03-DSN-00583	romck_chk_ablk OS-SW-08-T OS-SW-02-VAS-テスト手順ROM2 No.5	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題あり
26	OS-SW-03-DSN-00583	romck_chk_ablk OS-SW-08-T OS-SW-02-VAS-テスト手順ROM2 No.5	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題あり
27	OS-SW-03-DSN-00584	romck_cal_crc OS-SW-08-T OS-SW-02-VAS-テスト手順ROM2 No.1	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題あり
28	OS-SW-03-DSN-00584	romck_cal_crc OS-SW-08-T OS-SW-02-VAS-テスト手順ROM2 No.1	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題あり
29	OS-SW-01-REQ-02205	ROM2の故障検出OS-SW-01-RCS-SW-01-REQ-ROM2の故障検出	ROM2	ROM2の故障検出チェック	浅野	OK	問題あり

②そのままレビュー結果を記録

③複数人のレビュー結果をマージし  
インスペクションレビュー活用

影響分析も同様に実施

本ツールの画面: 当社製トレーサビリティ管理ツール“Greyhound”より  
平成21年度 全国中小企業団体中央会 試作開発等支援事業にて開発

## 5. ガイドブックのご紹介

# ガイドブックのセーフティ設計関連 目次(仮)

## **SEC BOOKS:**

### **品質向上のためのセーフティ&セキュリティ設計の勧め(仮)**

※ガイドブック発刊に向けて、IPA/SECにて現在取りまとめ中です。

※下記目次は、サプライチェーンにおける品質の見える化WG検討資料より一部抜粋。

- セーフティのためのソフトウェア設計
  - セーフティ設計の開発プロセス
    - セーフティを考慮した設計とは
    - セーフティを考慮したソフトウェア開発プロセス
  - セーフティ設計の手法
    - ハザード&リスク分析
    - セーフティを実現するための技術
      - ✓ セーフティに有効な設計手法
      - ✓ 安全性を高める考え方
  - セーフティ設計の評価手法と認証
    - セーフティ設計の妥当性確認
    - 機能安全認証

# ご清聴ありがとうございました。

本内容の関連サイトもご覧ください。

◎当社ホームページ: <http://www.witz-inc.co.jp/>

◎TÜV SÜD による認証確認サイト:

[http://www.tuev-sued.de/industry\\_and\\_consumer\\_products/certificates](http://www.tuev-sued.de/industry_and_consumer_products/certificates)  
(Search欄で、"Witz Corporation"と入力してください)

◎プロセス認証プレス発表記事

日本経済新聞: <http://release.nikkei.co.jp/detail.cfm?relID=306435&lindID=1>

EDN: <http://ednjapan.com/edn/articles/1203/29/news083.html>

Tech On!: <http://techon.nikkeibp.co.jp/article/NEWS/20120329/210429/>

パナソニック: <http://panasonic.co.jp/corp/news/official.data/data.dir/jn120329-8/jn120329-8.html>

東芝: [http://www.toshiba.co.jp/about/press/2012\\_03/pr\\_j2901.htm](http://www.toshiba.co.jp/about/press/2012_03/pr_j2901.htm)

iPROS: <http://www.ipros.jp/news/article/detail/3649/>

Response: <http://response.jp/article/2012/03/30/172177.html>

Tech-On! (IEC61508): <http://techon.nikkeibp.co.jp/article/NEWS/20100512/182502/>

本内容についてのご質問は下記にお願いします

株式会社ヴィッツ 執行役員

機能安全開発部 部長 森川 聡久

[morikawa@witz-inc.co.jp](mailto:morikawa@witz-inc.co.jp)

Tel: 052-220-1218